

## MM地区にR&D拠点の 集積進む

企業の研究開発(R&D)拠点が、横浜市のみならず、MM21地区に急ピッチで集積している。土地やビルの取得コストが東京より大幅に安いうえ、神奈川県内から優秀な人材を容易に集められるのが同地区の強み。組織を超えて知の結集を狙う「オープンイノベーション」の時代を迎え、関係者は「集積が集積を生む好循環」を期待している。

資生堂は2019年4月、MM21地区に「グローバルイノベーションセンター」を開業した。地下1階地上16階建てで、延べ床面積は約5万6,000平方メートル。研究員の柔軟な発想を促すため、室内にジャングルジムやテントなども設置。1～2階には一般人も入れるカフェやフィットネス施設、ミュージアムなども設けた。総投資額は400億円超。

京セラは19年7月、同地区の事務所ビル「OCEAN GATE MINATO MIRAI」の5フロア(合計床面積約1万800平方メートル)を借り、首都圏3カ所にあったR&D機能を集約して「みなとみらいイノベーションセンター」を開業。モノのインターネット(IoT)や人工知能(AI)などの分野に注力する体制を整えた。

これらに先立って、「富士ゼロックスR&Dスクエア(現・富士ゼロックス横浜みなとみらい事業所)」(10年)、「富士通エフサスみなとみらいイノベーション&フューチャーセンター」(13年、クイーンズタワーB棟9階)、「横浜野村ビル(オフィス部分に野村総合研究所が入居)」(17年)などが同地区にオープンしている。

今後、同地区に立地を計画しているのは「ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ」、「LGエレクトロニクス・ジャパン」、「村田製作所」、「ヤマハ」など。ソニーは建設中の事務所ビル「横浜グランゲート」(地上19階建て、延べ床面積約10万1,000平方メートル)を1棟借りし、カメラ関係のR&D機能を集約する。稼働予定は20年10月。

韓国の総合電機メーカー・LGは19年6月、同地区で「LGグローバルR&Dセンター」の着工式を行った。地下2階地上16階建てで、延べ床面積は約3万5,800平



資生堂グローバルイノベーションセンターの1～2階には一般人も入れる施設が完備

方メートル。完成予定は21年11月。ロボットやバイオなど「未来志向の研究」を手掛けるほか、1～2階にはLGの技術や製品に触れることのできる「にぎわい施設」も設ける。

村田製作所は「みなとみらいイノベーションセンター」を建設している。地下2階地上18階建てで、延べ床面積は約6万5,400平方メートル。20年9月の完成を目指す。総投資額は約400億円。ヤマハは大林組など3社と共同で同地区に建設するオフィスビル(地上28階建てと15階建ての2棟で、延べ床面積約18万平方メートル)の中にR&D機能を設けることを計画している。完成予定は23年11月。

同地区にR&D拠点が集積する要因として、事業用不動産サービス会社の「CBRE」(本社・米国)は ①大型ビルの新規供給が持続している ②ビルや土地の取得コストが東京に比べて大幅に安い(大型ビルの賃料は約半額)③神奈川県内に理工系学生や専門的・技術的職業従事者が多く住み、人材が確保しやすい、などを挙げる。

横浜市や県は、R&D拠点の進出に対して助成金の支給(上限合計60億円)や税制面の優遇など手厚い措置を講じ、オープンイノベーションの場づくりにも力を入れている。MM21地区が「日本のシリコンバレー」に大化けするか、目が離せなくなってきた。